

府小っ子モーニングビュッフェ ～朝ごはんを食べよう！～

対応いただいた方

府中町婦人会 会長 繁政 秀子

府中町教育委員会事務局 社会教育課長 山下 賢二

安芸郡府中町立府中小学校 校長 竹下 比登美

府中町及び府中町立府中小学校の概要

府中町について

人 口 約 51,000 人

面 積 10.41 km²

学校数 小学校 5 校（児童数 約 2,900 人）

中学校 2 校（生徒数 約 1,200 人）

広島駅から約 5 km の位置にあり、周囲を広島市に囲まれている。自動車メーカー「マツダ」の本社所在地。

府中小学校について

児童数 820 人

学級数 28 学級



事業の概要

平成 31 年 2 月から広島県「朝ごはん推進モデル事業」を利用して、朝ごはんを児童に提供している。

広島県「朝ごはん推進モデル事業」とは・・・

県内の全ての子供たちが朝食を食べることができる環境を整備し、子供の能力と可能性を高める基礎となる生活習慣を身に付けてもらうため、平

成30年度からモデル事業に取り組んでおり、事業に要する経費や運営方法、成果などを検証することとしている。

モデル事業に要する初期経費（備品や食器の購入、施設整備費など）は県から交付される。また、食材や消耗品などは県内の協力企業（16 社 R1.5.31 時点）から無償提供。

前日準備から当日の流れ

実施前日

ボランティア（婦人会会長 繁政氏）が食材買い出し。（隔週）

実施当日

6 時 00 分

用務員又は町教委職員が開錠。

ボランティアが集合、調理開始。





- この日のメニューは、
- おにぎり（具なし）
 - お味噌汁（玉ねぎ、じゃがいも、油揚げ、刻みネギ）、酢の物（わかめ、キュウリ、にんじん）
 - 野菜ジュース

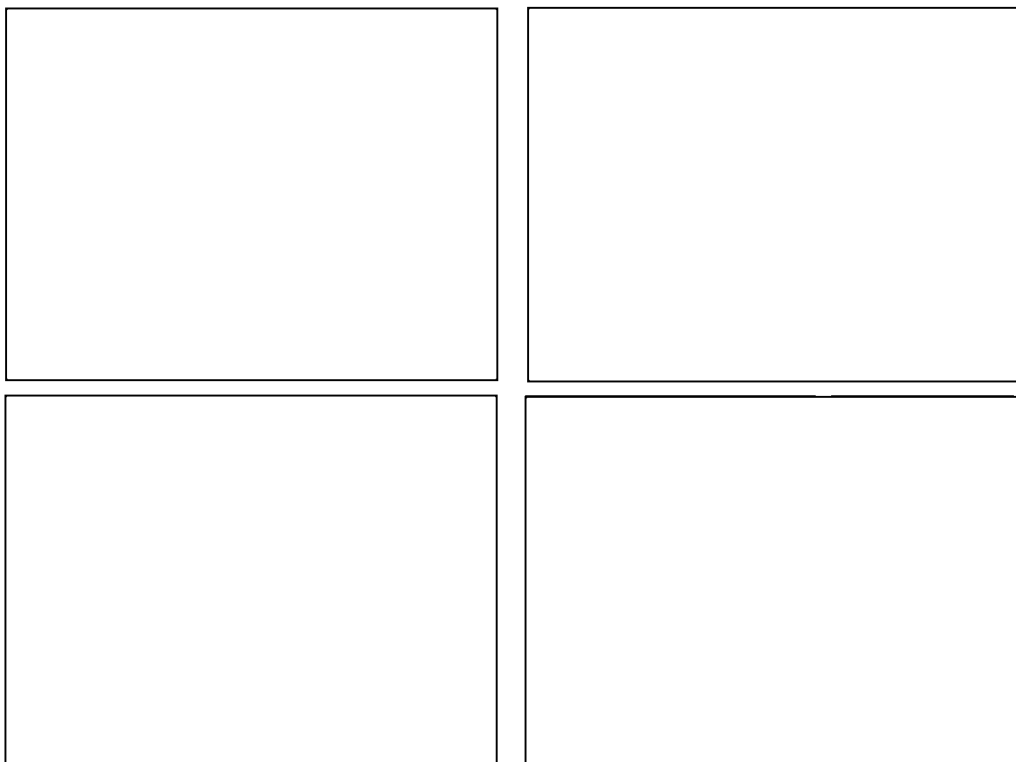
7 時 40 分 児童が登校。教室に荷物を置いてから、家庭科室へ。
受付をして順次「いただきます」
概ね 8 時頃には全員が受付を済ませている。
（令和元年度 登録 96 名 当日参加数 85 名）
（前年度 登録 75 名程度）



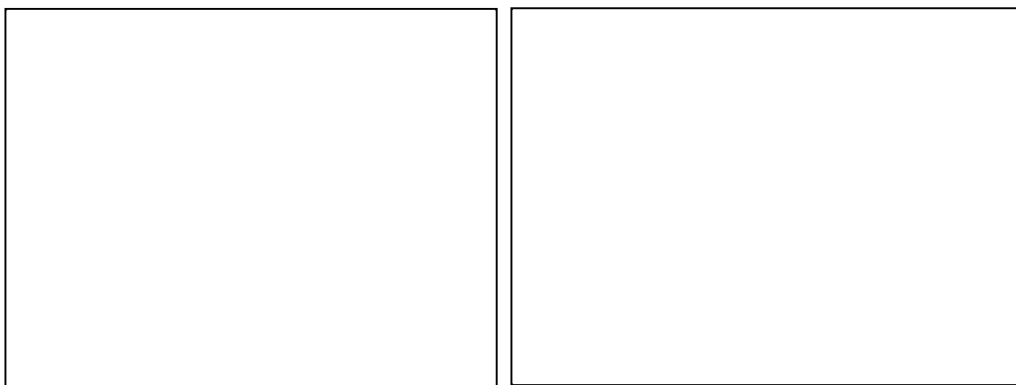
大きな声で「おはようございます」



婦人会の方も「おはよう」「こっちだよ」



食べ終わったら自分でお皿を運ぶ。「ごちそうさまでした」
婦人会の方から「エライね」「いってらっしゃい」
それぞれ教室に向かう。



8 時 00 分 ほとんどの児童が食べ終わり。学校の「朝の活動」は 8 時 10 分から。

9 時 00 分 家庭科室の片づけ終了。ボランティアの方も解散。

事業を始めるまでの経緯

- 広島県では2カ所目の取組み。
- 「健康的な生活リズム」や「食習慣の確立」という点で、教育長が事業に積極的であったことによる。
- 府中町としては社会教育の一環という認識。（担当課は教育委員会事務局社会教育課）
- 担い手は、社会教育課の所管団体である婦人会に声をかけたところ快諾いただけた。
- 府中町婦人会会長：繁政さんに引き受けた理由を尋ねたところ、「食べていない子がいるなら、こういう取り組みも良いんじゃないかと思って引き受けた。」「不安だとか言い出したらキリがない。」

開催場所について

- 府中町立府中小学校 家庭科室（1階）で実施している。
- 当初は、社会教育の場として隣接する公民館を検討していたが、通学のこと（通学路、学校への移動時間）を考えて、学校の家庭科室を打診し、了解を得ることができた。

運営主体について

- 府中町婦人会が担う。（会長は町議会議員も務める 繁政秀子氏）
- 府中町内には5校、2婦人会があり、府中町婦人会は3校区にわたっている。
- 毎回11人（固定メンバー）が参加（概ね70歳代後半～80歳位）。
- 婦人会（役員20人）内でメンバーを募り、確実に毎回参加できる方だけで運営している。断るべき所は断ることも重要。婦人会自体に入れ替わりがあるため、4月から参加という方もいた。
- 町教委の担当職員（事務）1名が毎回手伝いに来ている。
- 学校の担当教諭も毎回参加。（学校・教委として強制しているわけではない。）

開催頻度について

- 週1回（毎週水曜日）。
- 事業開始当初は、登録数75人分の準備に不安があったため、学年別に2グループに分けて実施していたが、一度試しに75人分の提供をしたところ、可能であることが分かったため、現在（96人）は分けずに実施している。

時間について

- 個人登校
- 子どもたちには7時40分に登校するよう伝えている。
- 水曜日は1限目に家庭科室を使う授業がないので、片付け時間に制限はないが、概ね9時には終了している。

参加者について

- 現在96名が登録。（昨年度は75名程度）
- 限定なし。（事前登録制）
- 学期毎に登録を行う予定。申込書の配布・回収は学校、回収後の集計は町教委で行っている。
- 事前に使用食材の成分表を配布しており、アレルギー対応ができない旨を伝えている。
- アレルギーの有無は学校で確認している。

料金について

- 自己負担なし
- 食材・消耗品は全て協力企業からの提供のため、光熱水費程度の経費しか発生していない。
- 府中町は隔週で手作りするため、食材の購入経費が発生している。この経費は広島県では負担しない。担い手である府中町婦人会の予算をから支出している。夏祭りでの売上を充てているとのこと。負担は感じていないとのこと。

メニュー・食材について

- メニューは隔週で「県メニュー」と「手作りメニュー」を入れ替えている。
（県メニュー → 手作りメニュー → 県メニュー）
- 県メニュー
 - ・・・メニューの一例 シリアル、豆乳、ポタージュスープ、野菜ジュース
- 手作りメニュー
 - ・・・一例 おにぎり（具なし）、味噌汁（玉ねぎ、じゃがいも、油揚げ、刻みネギ）、酢の物（きゅうり、わかめ、人参）、野菜ジュース
- 広島県「朝ごはん推進モデル事業」を先行して実施している自治体（廿日市市）では、県メニューだけを提供している。
- 手作りメニューの食材は、地域からの無償提供と府中町婦人会が購入。米・味噌は協力企業からの提供。季節の食材を中心に選んでいるとのこと。
- 食材は食べやすいように一口サイズに切り、量は食べきれるように少なめにしている。（おにぎりを残した子は数名いたが、おかずを残した子はいなかった。）
- 協力企業への食材発注は町教委が行っている。

保険について

- 実施主体（府中町婦人会）：ボランティア活動保険
- 児童：独立行政法人スポーツ振興センター災害給付制度※
 - ※義務教育諸学校、高等学校、高等専門学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、高等専修学校及び保育所等の管理下における災害に対し、災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行っている。
- 児童に対しての保険は、学校管理下での活動という認識。

衛生管理について

- マスク、手袋、三角巾を着用。
 - 検便などは行っていない。
 - 安全衛生管理者は町教委社会教育課で1名。
 - 消耗品（マスク、手袋、ゴミ袋、キッチンペーパー、洗剤など）は、県協力企業のマックスバリュウ西日本(株)が提供。
-

子どもたちの様子について

- 受付の後、必ず婦人会の方へ「おはようございます」、食べ終わったら、食器を返しに来て「ありがとうございました」と大きな声であいさつしている。担当の先生が特に挨拶は意識させている様子。
- 事業開始当初は堅かったが、今は慣れてきてとても元気、あいさつもきちんとできるようになってきたとのこと。
- 事業の効果は、子どもたちや保護者にアンケートをとっていないため、把握できていない。
- 婦人会の方は、食べ終わったら「エライね」「いってらっしゃい」「がんばってね」と声かけしていた。
- 児童の声
 - ・「兄弟で参加している。兄（姉）が参加しているのが羨ましくて申し込んだ。朝ごはんを食べると授業に集中できるし、楽しい。」

担い手（府中町婦人会）の声

- 「人のためだけでは続かない。人に喜んでもらって自分も元気をもらっている」
- 「生きがい」
- 「子どもの笑顔を見ると嬉しいし、かわいい。元気でいる限り続けたいと思っている」
- 「当初は申込みをしていないのに友達と一緒に来る子がいて、断るのが可哀そうだった。アレルギーの関係もあるので、親の許可がないと食べさせられないのが辛い」
- 「辛いのは朝起きるくらい。みんなで楽しくやっている」
- 「週1回くらいの開催がベストだと思う」

校長先生の声

- この事業を肯定的に受け止めている。
 - 事業を始める前は以下のようなことを心配していた。
 - ・事業を受けてくれるボランティアがいるか。
 - ・保護者への周知の仕方
 - ・参加する子どもが卑屈にならないか。
 - ・教員の負担が増えないか
-

- 婦人会が受けてくれたことや、食育の観点で子どもたちを募集したこと、町教委が募集要項をつくってくれたこと、貧困対策ではない事を明確にしたことでスムーズにいった。
- 主幹教諭が窓口になっている。物品の受け取りはあるが、大きな負担にはなっていない。
- 家庭に問題があるなど救いたい児童もいる。名簿登録させることで救える一助になっている。
- 事業が始まる前に、児童4人が教室ではなく相談室に登校していた。ところが、直接の理由ではないが、この事業をきっかけに普通教室に登校できるようになった。

事業の今後

- 広島県の推奨は3回／週の実施。現在の府中町婦人会では週1回が限界と感じている。
- 町内の他校に広がる事も期待するが、婦人会での対応がむずかしくなるかもしれない。
- 府中町は地域のつながりが残っており、他に声をかければ可能かもしれない。

その他

- 広島県「朝ごはん推進モデル事業」で、イニシャルコストを10割補助してもらえる。府中小学校においても、食器や鍋をはじめ、冷蔵庫、レンジ、炊飯器、食材を保管する棚、掃除機を購入したほか、家庭科室のエアコン整備を行った。
- OPTAの関わりはなし
- 反対意見としては、「食事は家庭が基本ではないか」という意見が一番多かった。

広島県「朝ごはん推進モデル事業補助金」を活用した備品等



エアコン



冷蔵庫



炊飯器



オープンレンジ

備品を置く棚

協力企業から提供されている食材



視察の様子



府中町婦人会（中央が繁政秀子氏 府中町議会議員も務める。9期目）

広島県「朝ごはん推進モデル事業」

対応いただいた方

広島県健康福祉局子供未来戦略担当 課長 内藤 和弘
主任 叶松 由紀子



事業開始の経緯

- 子供未来戦略担当は平成 30 年 4 月にできた新組織。子どもの貧困対策を目的に設置された。
- 朝ごはんの事業も当初は貧困対策として検討していたが、欠食の原因が貧困ではない事が判明したため、方向転換。
- この事業の目的として「貧困対策」は絶対 NG。

事業開始前の準備・課題

- ボランティアがキーになる。学校との関係が重要。府中町は繁政さんの存在が大きい。廿日市市も同様。
- 事業の継続のため、ボランティアのモチベーションを高く維持させることも大切。地域の子どもたちを見守っているということもモチベーションの1つ。
- 行政主導は難しい。学校としても取り組むためには地域から声が上がっていることが必要。
- 遅刻が多いことや朝食欠食の状況など、現状への危機感がないと難しい。廿日市市も府中町も校長先生は欠食や生活習慣に課題認識があった。

- 実施学校の教員には極力負担をかけない仕組みにすることが重要。
- 衛生管理の面では担当部局と事前に調整した。
- この事業に対する県教委のスタンスは静観。だが、プロジェクトチームを作り、部局横断的に教委と一緒に取り組むことができるようにしている。

廿日市市立阿品台東小学校での取組みについて

廿日市市立阿品台東小学校について

児童数：252 名

学級数：13 学級

個人登校

- 教育長が熱心だったのが、廿日市市と府中町であった。
- 廿日市市の担当は福祉部門。教委とも協力関係にある。
- 手作りはしていない。全て協力企業からの提供品のみで実施。したがって、朝 6 時 30 分頃からボランティアが準備しているが、時間が早い理由は朝ごはんを食べる会場づくりのため。調理はスープにお湯を注ぐ程度。
- 校長先生には生活習慣に対する課題認識があったが、それでも当初は事業に対して半信半疑であった。今では熱心に取り組んでくれている。それは子どもたちの様子が変わったから。
- 成果がでている。遅刻の減少や参加児童の地域への愛着が強まっている（アンケート結果）。
- 廿日市市の教諭からは、明らかに授業へのモチベーションが違うという声を聞いている。
- 家庭に問題を抱える子たちを学校に来させる教員のツールにもなっている。
- 週 2 回に増やすことを検討している。ボランティアの負担増になるので、近隣の看護大学へ声かけをしている。

協力企業について

- 事業の性格上、継続させることが重要。そのために協力企業や提供食品の選定が重要。
 - 「ボランティアの負担を軽くすること」
 - 「お金（予算）をかけない仕組みの構築」
- 食材は日持ちして保管できるもの、簡単に調理できるものを選んでいく。受け取りや保存にも手間がかかる。協力企業と食材の選定にも戦略が必要。

（現在の提供食材のうち日持ちしないのは、パンとヤクルトだけ。使う日を決めておけば、前日に受け取ることができる。）

- 協力企業からは、「朝食摂取率が下がっていることに社として危機感を持っている。マーケットが縮小し億単位の損失。子供たちが朝食をとるような環境にしたい。行政と一緒に取り組んでくれることは社としてもありがたい。」という声がある。
- 包括連携を結んでいる企業は2社（大塚製薬(株)、カゴメ(株)）だけ。その他の企業とは、「朝ごはん推進モデル事業に係る提供・譲渡に関する合意書」を結んでいる。
- 米を提供している2社は府中町の要請で追加した。米は調理と保管の手間がかかるので想定していなかった。
- 送料は企業持ち。
- 受取りは各学校（廿日市市は教頭先生、府中町は主幹教諭）。
- 協力企業からの苦情はない。

今後の課題、その他

- 週1回では習慣化しない。できれば週3回に持っていきたい。文科省の欠食率の調査が週3日のため。
- 成果を客観的に示すことが必要だと考えている。すぐに効果が出るものではなく長期的な取り組みが必要だと認識しているが、数字を示さなくては、取り組む学校が広がらない。
- モデル事業なのでパターン（実施場所や調理方法、登校方法など）を変えながら、どのようなやり方が最も効果的か、他にどのような取り組み方があるか検討していかななくてはならない。
- 今年度に竹原市で1カ所新設予定。
- 最終的に子どもへの習慣化、事業が無くなることが理想だと考えている。

子供たちを取り巻く環境 ～ リスクの顕在化

■ 児童虐待相談件数の増加

広島県 H25：1,559件 ⇒ H29：2,053件

（出所）広島県こども家庭課調べ

■ 不登校児童生徒の増加

県内の小学校H25：644人 ⇒ H29：893人

県内の中学校H25：1,985人 ⇒ H29：2,149人

（出所）文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

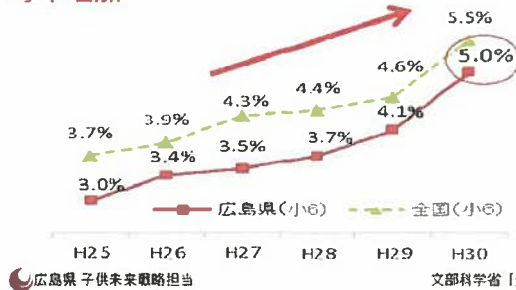
■ 子供の生活習慣の悪化

県内の小6の朝食欠食率 H25：3.0% ⇒ H30：5.0%

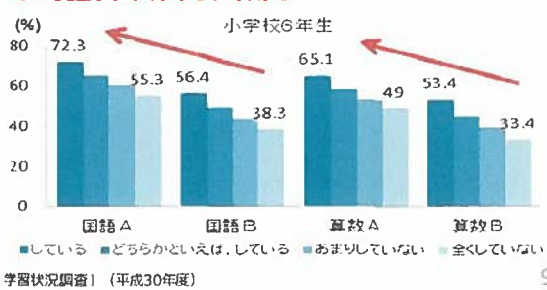
県内の小6の同時刻に寝る割合 H25：81.0%⇒H30：79.7%

（出所）文部科学省「全国学力・学習状況調査」

児童の朝食欠食率が平成25年度から毎年増加



毎日朝食を食べる子供ほど学力調査の平均正答率が高い傾向



我々の「目指す姿」と「考え方」

～成育環境の違いに関わらず、全ての子供たちが健やかに成長し、夢や希望を育むことができる社会の実現～

どのような環境でも、子供たちがたくましく育ち、生きていく資質・能力を身に付け、自らの可能性を最大限高めることができるようにしていく必要がある。

具体的には

確かな学力、折れない心、あきらめず粘り強く取り組む力（レジリエンス）等を育む

このため

学びのセーフティネットの構築

小学校低学年からの学習のつまずきを把握するための調査の試行実施や不登校対策の強化など、学びのセーフティネットの構築に向けた取組を進める

能力と可能性を高めるために必要な生活習慣づくり

子供の能力と可能性を高めるために必要な生活習慣づくりとして、全ての子供たちが朝食を食べることができる仕組みづくりなどの取組を進める。

「目指す姿」と現実のギャップ…

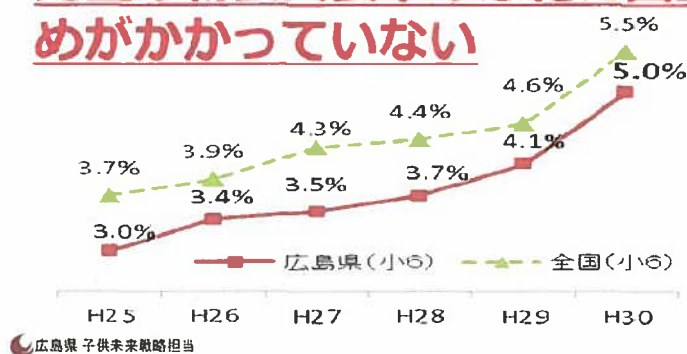
これまでの取組では…

✓「早寝早起き朝ごはん」国民運動の促進 等

- ・ フォーラムの開催や大臣表彰等 ⇒ **機運醸成**
- ・ 各学校や家庭 ⇒ **教育活動**
- ・ ガイドブック作成・配布 ⇒ **啓蒙活動** 等

その結果…

児童の朝食欠食率の悪化に歯止めがかかっていない



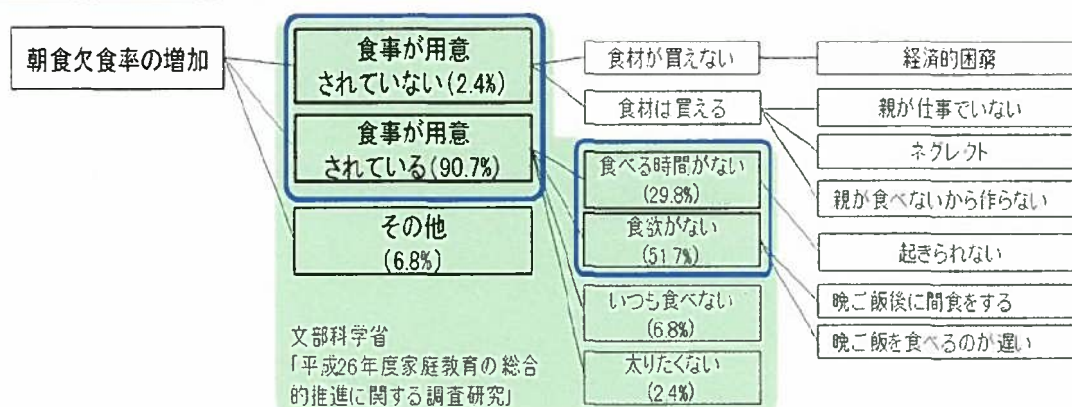
目指す姿の実現に向けては…

しっかりと原因を分析し、それを元に戦略を立て、効果のある施策を実行しなければ欠食率の悪化（生活習慣の乱れ）に歯止めがかからない。

11

なぜ子供たちは朝食を食べないのか？

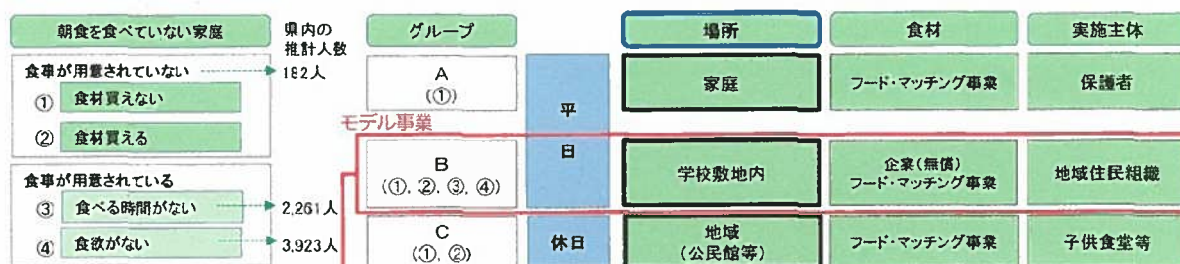
課題の構造化



- ◆ 欠食率(5.0%)を基に推計すると、朝食を食べていない児童数は7,588人
- ◆ 文科省の調査結果では、約9割の家庭で朝食は用意されている
- ◆ 朝食を食べない理由の多くが生活習慣の乱れが要因と想定される

どうしたら食べることでできる仕組みが作れるのか？

戦略の全体像

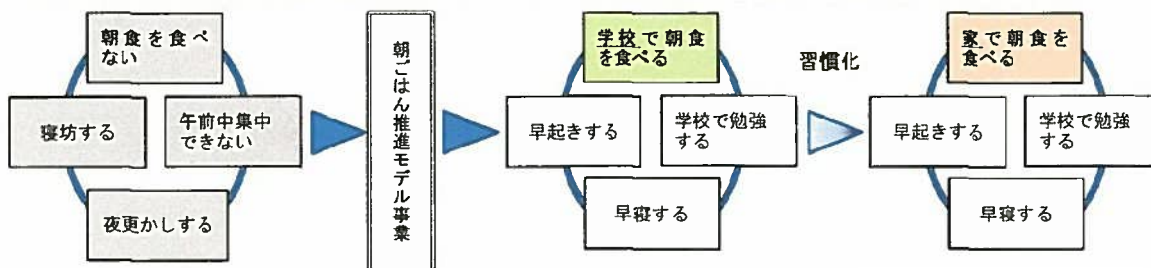


「朝ごはん推進モデル事業」の概要

- ◇実施場所 ～ 安全面等を考慮して小学校の敷地内(児童館, 家庭科室, 空き教室等)
- ◇対象児童 ～ 希望者全員(ただし, アレルギー等を考慮して希望者は事前登録)
- ◇実施主体 ～ 地域のボランティア団体等
- ◇食材調達 ～ 企業からの無償提供(現在, 協力企業16社)
味の素, アヲハタ, 大塚製薬, カゴメ, カルビー, キッコーマン, 日本ケロッグ, サタケ, 昭和産業, タカキベーカーリー, ますやみそ, マックスバリュ西日本, 山口県東部ヤクルト販売, 広島中央ヤクルト販売, キューピー, 食協
- ◇県補助金 ～ 備品整備や施設設備整備などのイニシャルコストに限定(3,000千円/団体を上限)

この事業で何を変えようとしているのか？

- ①モデル事業に参加し朝食を食べることにより, 脳に必要な栄養が補給され, 授業に集中できる
- ②モデル事業に継続的に参加することにより, 学校で活動的になり, 早く寝るようになれば, 本事業がない日も早寝, 早起きをするようになる
- ③早寝早起きが習慣化すれば朝お腹がすき, 家庭で朝食を食べるようになる
- ④家庭で朝食を食べるようになれば, 本事業への参加者は減っていく



事業目標とその他参考指標

■事業目標 ⇒ 朝食喫食率の向上

- モデル校の朝食喫食率 100%(事業開始翌年度)
- 県内児童(小学校6年生)の朝食欠食率 5.0%(2018年度)⇒4.9%(2019年度)

■その他参考指標

- 遅刻の状況調査
- 独自アンケートにより睡眠・起床時間, 学校生活での状況変化などを定期的に調査

見えてきた効果と課題(阿品台東小学校)

効 果

- ✓朝食を提供する日は遅刻が減少傾向
- ✓朝食を食べた日は授業に集中して積極的な姿勢が見える
- ✓ボランティアと児童との交流機会が増えてモチベーションが高まっている
- ✓参加児童の地域への愛着が強まっている
- ✓みんなで一緒に食べることを通じて、学校生活全体にも良い影響が生じている

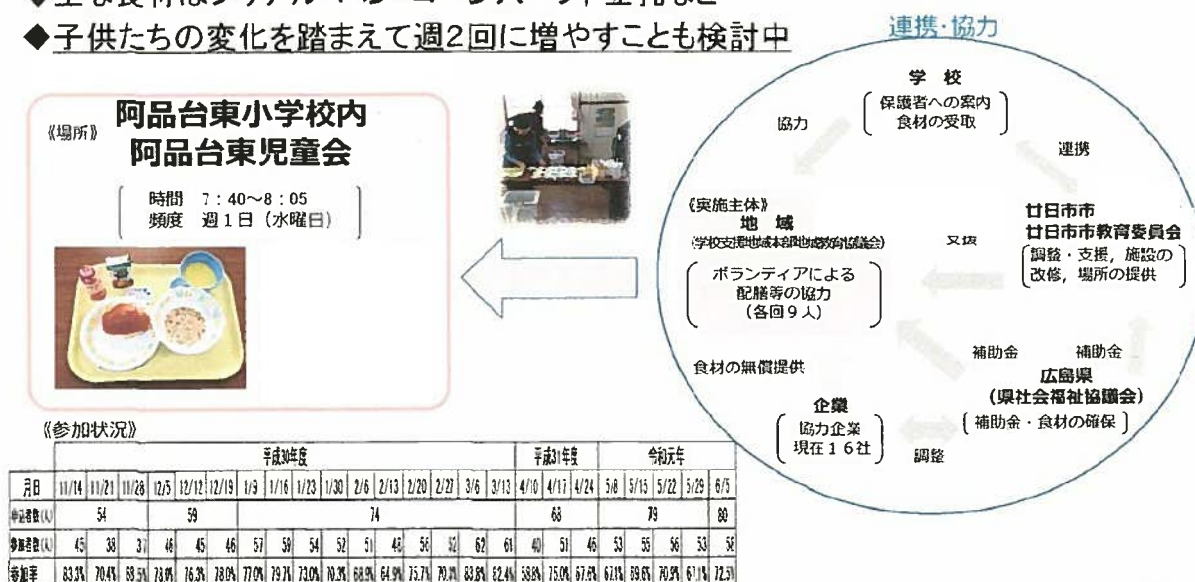
課 題

- ✓週1回だと朝食を食べる習慣化まではいかないのではないか
- ✓その他の生活習慣も身に付かないのではないか

取組事例 ～ 廿日市市立阿品台東小学校

～あじな東っ子モーニングひろば～

- ◆11月から開始し、学校敷地内の児童館で週1回実施しており、毎回50人以上が参加
- ◆実施主体は学校支援地域本部のボランティアメンバーが中心で、各回9人の2グループ
- ◆主な食材はシリアル・パン・コーンスープ、豆乳など
- ◆子供たちの変化を踏まえて週2回に増やすことも検討中



取組事例 ～ 府中町立府中小学校

～府小っ子モーニングピュッフェ～

- ◆2月から開始し、学校の家庭科室で週1回実施している
- ◆実施主体は府中町婦人会で、各回12人
- ◆食材はシリアルやパンなどに加えて月に2回はおむすびと味噌汁を提供
- ◆副菜やみそ汁の具など一部の食材は自己調達



【参加状況】

月日	平成30年度					令和元年	
	2/13	2/20	2/27	3/6	3/13	5/29	6/5
申込者数(人)	46	43	46	43	89	96	
参加者数(人)	42	40	37	40	73	81	78
参加率	91.3%	93.0%	80.4%	93.0%	82.0%	84.4%	81.3%

広島県 子供未来戦略担当

